

平成 30 年度 FD 地域人材育成フェスタ実施報告

COC+事業の一環として、インターンシップなど、事業において進める連携団体との協働の課題とノウハウを共有するための FD 地域人材育成フェスタを、2 月 22 日に徳島グランヴィリオホテルにて開催した。その詳細について報告する。

(1) 実施の目的

今年度の COC+事業での取組を振り返り、そこにおける成果や課題を「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」に参加する高等教育機関、行政、民間企業、経済団体、NPO 等、地域全体で確認・共有するとともに、今後の事業の進め方や県内就職率向上に向けた取組について協議する。また、事業終了後のコンソーシアム立ち上げに向けて、その目的や事業内容、組織形態に関する議論を深め、発足に向けて共通認識を広げる。

(2) 参加人数

事業参加校教職員	:	50 名
県内企業、団体等	:	20 名
徳島県関係者	:	27 名
行政機関職員	:	1 名
外部評価委員	:	1 名
高等学校教職員	:	3 名
学生	:	11 名
県外企業、団体等	:	5 名
計	:	118 名

(3) プログラム概要

【第一部】平成 30 年度の COC+事業成果報告

今年度の COC+事業での成果報告として、四国大学が実施している「創業支援事業」、徳島大学が実施している「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ」、参加校協働事業について、取り組み内容や課題等の報告を行った。

報告①：創業支援事業の取り組み（四国大学）

報告②：実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの取り組み（徳島大学）

報告③：参加校協働事業の取り組み（徳島大学）

【第二部】地方創生産学官コンソーシアムとくしま構想（仮称）に関するパネルディスカッション及びワークショップ

事業終了後のコンソーシアム立ち上げに向けて、その目的や事業内容、組織形態に関する議論を深めるためにパネルディスカッションを行った。

導入部分では、玉推進監から「地方創生産学官コンソーシアムとくしま(仮称)」構想について説明があった。続いてパネラーよりそれぞれの取り組みについて発表があり、その後、それぞれの発表に関して質疑応答を行った。

導入：「地方創生産学官コンソーシアムとくしま(仮称)」構想について
(徳島大学 玉推進監)

発表①：九州インターンシップ推進協議会設立の経緯とこれまでの取組について
(九州インターンシップ推進協議会 事務局長 チェ・キョンミ氏)

発表②：情勢の変化に伴うインターンシップ事業の変化について

(NPO 法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部長 伊藤淳司氏)

発表③ : 実践力養成型(寺子屋式) インターンシップの取組について
(徳島大学 川崎コーディネーター)

発表④ : 事業・経営における戦略上のインターンシップに取り組む上での受入側の課題とメリットについて
(有限会社 櫻山農園 代表取締役社長 櫻山直樹氏)

ワークショップでは、地域人材の育成及び確保をはかるための産官学連携の強化にむけて、次の2つのテーマで話し合った。

テーマ1 : インターンシップの意味・意義について

- ①受入側の課題とメリット
- ②コーディネーターの役割
- ③マッチング等

テーマ2 : コンソーシアムについて

【第三部】情報交換会

参加教員、行政機関の職員、参加企業・団体の間で情報交換を行った。

(4) 事例報告の概要

【第一部】平成30年度のCOC+事業成果報告

報告①「創業支援事業の取組み」(四国大学)

報告者: 吉田寛夫(四国大学創業支援クリエーター)

- ・ 四国大学が COC+事業で実施している創業支援事業について、事業実施内容及び成果の報告を行った。
- ・ 成果報告では、学生1名が「チャレンジショップ in 東新町」についての発表を行った。

報告②「実践力養成型(寺子屋式) インターンシップ」(徳島大学)

報告者: 川崎克寛(徳島大学 COC+推進コーディネーター)

- ・ 徳島大学が推進しているプロジェクト型のインターンシップ(寺子屋式インターンシップ)について、取組の趣旨を説明し、平成30年度の実施内容及び成果の報告を行った。
- ・ パネルディスカッション形式で、インターンシップに取り組んだ受入れ企業1名、同企業において今年度インターンシップを行った学生1名、昨年度インターンシップを行い、今年度はサポートを行った学生1名が、インターンシップの成果、取組みを終えての想いについて発表を行った。

報告③「参加校協働事業の取組み」について

報告者: 山中英生(徳島大学 COC+推進監)

- ・ 参加校共同授業「徳島の魅力、徳島で働く」及び学生+保護者+高校生ガイダンス「徳島の魅力、徳島で働く～徳島で輝く産業を知る～」について、実施内容詳細、参加者アンケート集計結果等の報告を行った。

【第二部】ワークショップ

導入 : 「地方創生産学官コンソーシアムとくしま(仮称)構想」について

報告者: 玉 真之介(徳島大学 COC+推進監)

- ・ 地域と大学が果たすべき、新しい連携や協力について発表を行った。
- ・ 「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」を母体として、平成31年度を目処に設立を予定しているコンソーシアムの意義と今後の展望について、発表を行った。
- ・ 直後に行われるワークショップのテーマ発表を、最後に行った。

発表①: 九州インターンシップ推進協議会設立の経緯とこれまでの取組について

報告者：チェ・キョンミ（九州インターンシップ推進協議会 事務局長）

発表②：情勢の変化に伴うインターンシップ事業の変化について

報告者：伊藤 淳司（NPO 法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部長）

発表③：実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの取組について

報告者：川崎 克寛（徳島大学 COC+推進コーディネーター）

発表④：事業・経営における戦略上のインターンシップに取り組む上での受入側の課題とメリットについて

報告者：榎山 直樹（有限会社 榎山農園 代表取締役社長）

ワークショップ：産官学混合チーム（テーブルメンバー）により、「インターンシップの意味・意義」及び「コンソーシアム構想」についての意見交換を行った。

ワークショップで出た意見について、抜粋したものを以下に記載する。

- ・ 今までのノウハウ、スキームを共有させてもらえるのか、見せてもらえるのか。単位制度で各大学が連携できるのか？
- ・ 参加金を出して参加する企業や大学が徳島にあるか。
- ・ 大学生が1年間の長期間でどう学業と両立するのか。
- ・ 九州と比較しているなら、サイズがちがう。どのように徳島でやっていくのか？
- ・ 企業と学生の双方にあったインターンシップのマッチングがなされることが望ましい。
- ・ COC+事業終了後の継続のための仕組み（人材確保及び資金含む）。

(5) アンケート回答の取りまとめ

【第一部：COC+事業報告についての感想】

報告① 「創業支援事業の取組み」について

- ・ 事業内容をほとんど知らなかったため、取組みを知れてよかった。（徳島県職員）
- ・ 若い人たちに起業を意識してもらうのはとてもいいコトだと思った。自分も学生のときにこんな体験ができたらと感じた。（徳島県職員）
- ・ 卒業後の進路を考える上で起業について思いをはせるようになったという学生さんの感想が興味深かったです。（阿南高等専門学校教員）
- ・ 商店街の活性化はどの市町村にもあてはまる課題であり、今後の参考としたい。（行政機関職員）
- ・ 東新町のチャレンジショップについてはぜひ継続・定着を目指してほしい。そのためにも単に体験として楽しかったで終わらせず、学生のモチベーションを維持しつつ、事業としてやっていく方法についても議論として聞きたい。（徳島大学教員）
- ・ チャレンジシップのような学生に地域がかかえる課題を取り組ませる事業があり、面白いと感じた。教えられるだけではなく、やってみる場があることは学生にとって大きな価値があると思う。（徳島大学学生）
- ・ 学生自身で事業を企画・運営を行う取組みは非常によい経験になると思う。起業される方が増えれば地域活性化にもつながる。また、本取組みによって主体性を持った考え方が養成されると思うので、企業に入った場合でも活躍できる人材となると思う。（参加企業）
- ・ 地域の活性化のため、使命感やチャレンジ精神につき動かされた若い力を感じた。（参加企業）

報告②「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ」について

- ・ 実際にインターンシップに参加した学生さんの声が聞けて、どういう効果があるのかわかった。（徳島県職員）
- ・ 長期間のインターンシップで学生の成長につながると思う。受け入れ担当としてもとても良い経験になった。就職につながればいいと思います。（徳島県職員）
- ・ 学年をまぜてのチームを作って一緒に起業の問題解決に取り組む本事業にはとても興味を持ってお話しを聞かせていただきました。（阿南高等専門学校教員）
- ・ 教育理論に実際に導入可能な形をもっていけているのがよい。企業側にも社員の「成長」があったというのがポイントだと感じた。（徳島大学教員）
- ・ ストレス耐性のない学生がストレスのかたまりであるプロジェクトに取り組む機会を持つことは、教育効果として良い（=学生のメリット）受入企業のメリットは、企業の方で積極的に関わり、自ら得ようとしなければ効果は見込めない。教育ボランティアの考えでは成功しないことがわかった。どんのメリット=人材育成（社会人養成）のためのスキル（積極的に関わって初めて得られる）を得た。指導のスキルも。（徳島大学教員）
- ・ 成長するチャンスとなったし、社会人に入って知ることを学生の時に触れ体験することができて良かった。発表お疲れ様でした。（徳島大学学生）
- ・ 良い取り組みかつ受入企業（榎山農園様、市岡製菓様等）の選定も良いと思う。コーディネーターの方が能力の高さ、努力が重要だと思うので、そういったコーディネーターの増員も今後の規模拡大には必要だと思う。（参加企業）
- ・ 新学習指導要領導入により発生するニーズに対応した視点は素晴らしいと感じた。学校での学びが実践につながっている点も良い。専門性を持っている強みを感じた。今後の広がり期待したい。寺子屋式という企業、大学、学生の連携、サポート体制、カリキュラムはインターンシップの効果を大いに上げてくれると思う。（高等学校教員）

報告③「参加校協働事業の取り組み」について

- ・ 早い段階でのガイダンスは興味をもってもらうという点で有効だと思う。（徳島県職員）
- ・ 4日間、他分野の人を知る事が大切。（徳島工業短期大学職員）
- ・ 県内企業に関する学生の認知度がどの程度変わったのか、データに興味があります。（徳島大学教員）
- ・ 多分野の企業、学生の参加により、徳島の強み、ビジョンを考えられている。（参加企業）
- ・ 徳島の課題と魅力を若い視点から洗い出すのは大人と違った発想発展があり、有意義だと感じる。そのうえで現場の声を聞くことで、より現実的、実践的になると思う。（高等学校教員）

【第三部：コンソーシアムとくしま・ワークショップについての感想】

- ・ いろいろな意見がきけてよかったが、ワークショップは時間が短かったと思う。（徳島県職員）
- ・ インターン生のモチベーションに加えて受入企業のモチベーションをいかに継続させていくかが重要と思われる。プロジェクト活動と同じで人を巻き込むことが大切。（徳島大学教員）
- ・ 文化系・理科系・分野にとってインターンのより良いやり方はそれぞれに違うように思います。
- ・ 皆様のご発言の中からインターンシップだけにとどまらない大学教育についての示唆をいただきました。（徳島工業短期大学教員）
- ・ インターンシップの負の循環、形骸化を感じているので、企業・地域にメリットのあるインターンシップという発想はとても参考になった。送り出す学校側の責任が大きいと思うので、事前研修をしっかりと行っていただきたい。（高等学校教員）

(6) 広報リーフレット



日時 2019年
2月22日 [金]
 13:00~17:00
 (情報交換会 17:30~19:00)

日時 徳島グランヴィリオホテル
 1階 グランヴィリオホール
 〒770-0941 徳島市万代町3-5-1

- 参加対象**
- ① 徳島大学、徳島文理大学、四国大学・徳島工業短期大学、阿南工業高等専門学校の教職員
 - ② 事業協働機関の関係者 ③ 実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ受入先・受入検討中の関係者
 - ④ 県内高等学校、教育委員会関係者 ⑤ 外部評価委員 ⑥ 他府県COC+事業、インターンシップ事業関係者

今年度のCOC+の事業での取組を振り返り、これまでの成果や見えてきた課題を「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」に参加する高等教育機関、行政、民間企業、経済団体、NPO等、地域全体で確認・共有するとともに、今後の事業展開や県内就職率向上のための取組について協議します。また、事業終了後のコンソーシアム立ち上げに向けて、その目的や事業内容、組織形態に関する議論を深め、発足に向けて共通認識を広げます。



(7) 会場の様子



開会挨拶をする野地学長



【第一部】 創業支援事業の取組報告の様子



【第一部】 インターンシップの取組報告の様子



【第二部】 パネルディスカッションの様子



【第二部】 ワークショップの様子



閉会挨拶をする吉田理事